

8 本田 美香 さん Mika Honda

起

北勢

林業女子会@みえ（桑名市）

代表

事業所

住所：三重県桑名市長島町松ヶ島 733-76

会員数：約30名

業種

森林・林業に関する情報
発信、地域材利用の提案



Profile

- ・三重県職員で林業普及指導員
- ・2014年に『林業女子会@みえ』を結成
- ・三重の木を暮らしに取り入れる提案
- ・森や林業を女性の視点から考える

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他

講演実績

「私の使命」

美しい三重の木を、もっと暮らしに身近に

2010年に京都で始まった『林業女子会』。取組は各県に広がり、三重県では2014年に『林業女子会@みえ』が始動。県の林業技師として働く本田さんが代表を務めます。

『林業女子会@みえ』のメッセージは、「三重の木を、もっと暮らしに身近に」。「三重の木と聞くと、住宅用材が思い浮かぶかもしれませんが、だけど身近でおしゃれな家具や生活雑貨も実はあるんですよ」と本田さんは伝えます。

2017年には三重県立美術館で『三重の木の椅子展』を開催するなど、木工展覧会を隔年で企画。そのほか材木が生まれる場所＝三重の森を訪れ、林業を知る見学会も開催しています。いずれも“ママも子も、どちらも楽しめる”ことを大切にしています。

“木”の仕事を増やせば山は元気に蘇る

『林業女子会@みえ』の活動は①ワーキング（月1回）、②『美杉なあなまつり』への出展（年1回）、③展覧会開催（隔年）、④森の見学会（不定期）。活動を通じて、林業の衰退や森の荒廃を考えます。「山の麓町が活気づけば、森も元気になるはず」。本田さんは東員町の新興住宅地育ち。学生時代は、よく造成工事を眺めていたといいます。「森を守りたい。森の案内人になろう、と思い描いていました」。

その後、農学部を卒業。植木職人を経て三重県の林業技師として就職。津農林水産事務所に勤務していたころ、ちょうど映画『WOOD JOB！』の撮影で地域が盛り上がり、「今なら女子会を結成できそう。そんなワクワクする熱気が後押しとなりました」。

私流リーダーシップ

女子会員のワザと知恵で林業廃材を活用

会の活動資金や資材は自分達で捻出しています。そこで頼りになるのが、会員の女子達。三重の森に興味を抱く一般女性から、製材所の女性経営者、林業関係の元職員といった“森のエキスパート”まで約30名が揃います。「チェンソーを使えたり、製材所に知り合いがいたりする人も」。

そんな縁を活かし、2017年には製材所から“おが粉”を譲り受けました。目的は“染料”として使うため。糸を染め、コースターを制作。そのコースターを元手に地元の企業や団体へ支援を呼びかけ、活動資金を集めることに成功。また2018年の『美杉なあなまつり』で、ウェルカムボードづくりの体験会を開催した際も、製材所から提供を受けた端材を活用しました。

女性・子ども・林業者みんな森の中で笑顔に

会員の力を借りるには、参加して“楽しい会・興味深い会”にする必要があると本田さんは考えます。「チラシづくりが得意な方、会計に明るい方など、色々な方がいるはず。彼女達が秘めた力を発揮できる場にした」。子育てに役立つ／人の縁が広がる／自己実現できる会になるよう心がけます。

そんな女子会の活動は、森で作業する林業従事者にも良い効果をもたらしているとか。「子連れ見学会を開催すると、林業家の方々の表情が輝きます。『すごーい』『カッコイイ！』って女性や子ども達に言われて、とても誇らしそう。彼らも孤独だったことに気づきます」。森と女性。両者をマッチングして、未来を明るくする新しい風を起こします。

（取材時：2018年8月）

こんな講演・相談に対応できます

- 林業女子による“木育”導入アイデア
- 林業に脚光を当てる女性目線の企画
- 子ども向け体験イベントの開催
- 女性向け林業体験会の企画

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：<http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm>

WEBは
こちら

